

変えようと、変わろうと ～「あいせい」から「君の空から」に～

愛成学園施設長 片山 泰伸

「比較をするところに不幸が始まる。」と、学生の時にゼミの先生から聞いたことがあります。でもこの度は、敢えて比較をしてみようと思います。

私が、学園にお世話になるようになってからの半年と、この四月からの半年についてです。誤解をして欲しくないことは、決して過去を否定しようとするものではなく、新生愛成学園に向けて、「変えようと、変わろうと」している働き方の結果だと思えるからです。

具体的な主体性のある提案については、まだまだ僅かなスタッフからしか聞こえてきませんが、それでも、学園が向かおうとしている方向には忠実に、愚直なくらいに、「変えようと、変わろうと」いう姿勢が伝わってきます。スマイル祭りに参加してからというもの、それがうねりとなっているようです。九・十月は、地域のお祭りに参加しました。新しく参加させていただいた町内については、町内会がその為の会議を何度か開いたと耳にしています。あいせい祭も、昭和地域三大祭りとして仲間入りすることが出来ました。存在だけでなく、所属（仲間

入り）です。近所のおじさんが、実家の芋掘に連れて行ってくれました。ひまわり会（本人活動）が、地域の夏祭りイベントに参加し、活動資金に繋がる動きをしました。また、利用者さんは、紙漉の実演であるとか、受付であるとか、しっかりと責任を果たしました。ハミングバードでは毎月お祭りをしてはいますが、お客さんも増えているようです。在宅のお年寄りに、お弁当配達も始めました。

区から委託された公園清掃もしっかりとこなしています。利用者の方は、日中の間、地域に出て時間を過ごすことが多くなり、地域の人達も、学園を随分と気にしてくださっています。「変えようと、変わろうと」している学園を、街の人は温かい目で見守っています。だからこそ、今が正念場だと思うのです。

学園内でも、ゴールデンウィークの焼き肉会をきっかけに、余暇委員が毎月楽しい食事会を設定しています。ひまわり喫茶にも、街の人が遊びに来ます。お風呂一つをとっても、利用者さんは自己主張されるようになりました。新しい保護者会が出来、今後は学園と両輪となっ

て利用者の支援を考えていくことを確認しました。クッキーづくりも始まりました。「虹織り」という作品が、新しく生まれています。小さな作品達も、人気を集めています。受託加工も、年間の目標額を決め頑張っています。利用者さんも、残業もいとわず真剣です。

さて、生活の場に目をやると、四時から利用者さんが床につくまでは全力投球です。勤務が終わるのが、真夜中になっています。出来るだけ個別の関わりも持っていこうと、夕食会・買い物・プール等、時間を見つけては実現にこぎつけています。

そして、この冬、地域生活支援サービス事業が新たに始まります。街の中にある資源として、在宅の障害のある人達と、その家族の支援です。

「変えようと、変わろうと」する一途な働きが、街の風に触れる機会、人間の風に触れる機会を、そして何よりも近所の方に学園を知ってもらえたこと、確かに学園は新しくなっています。もう少しの間、「変えようと、変わろうと。」そして「あきらめないで。」